

学校教育評価 令和6年度アンケート結果、及び 令和5年度との比較

アンケート実施：令和6年12月（数字は%）

調査人数：全校人（低学年 91/108人・高学年 112/119人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 90人（家庭数戸174）（昨年度44人）

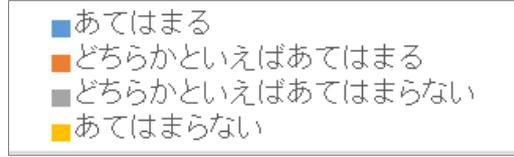
教職員13人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



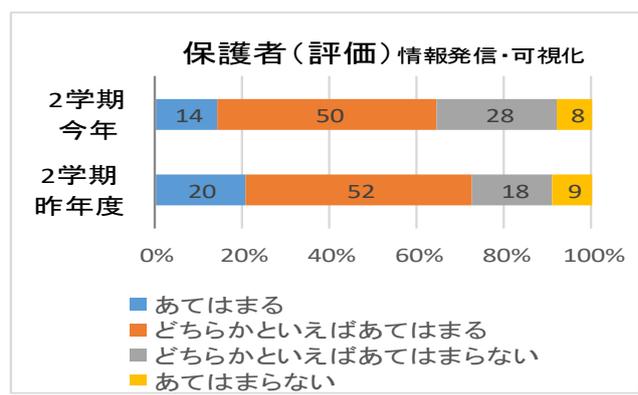
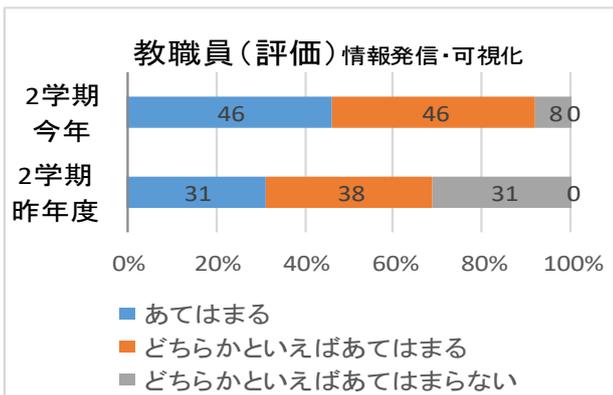
【開かれた学校づくり】

・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

教職員（問1）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。

保護者（問1）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが60%以上	問1 46	46	8	0	A	B
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが60%以上	問1 14	50	28	8	B	



【記述欄】

- 学年によってホームページに掲載される回数が少ない事もあり、様子がわかり難い気がする。
- 学年別の学校での様子を、もう少しHPにアップして欲しいです。

【分析・今後の対応】

教職員は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」があわせて9割以上超えており、昨年度よりもホームページやお知らせメールで情報発信できたと評価している。

しかし、保護者においては昨年度よりも「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」合わせて7割以下になっており、数値が回数を増やしさらに情報発信してほしいと願っている様子もうかがえる。学校業務の状況から考え、限界はあるが、今年度の情報発信頻度より多く情報発信し、保護者の要望に少しでも近づけられるよう検討する。普段の様子が伝わるように、お知らせメール等に普段の様子が伝わる画像を添えるなど、子どもの姿が伝わる機会を増やしていく。さらに、普段の様子や学習の様子については、毎月予定している学校へ行こうDAYや参観日等で、子どもたちの様子を知っていただきたい。

【生活指導】

- ・自分で考えて、判断し、行動できる子どもを育てる。
- ・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。

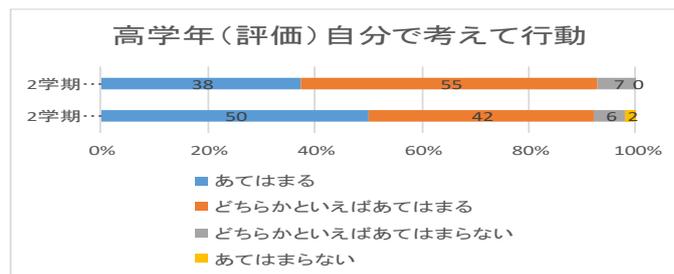
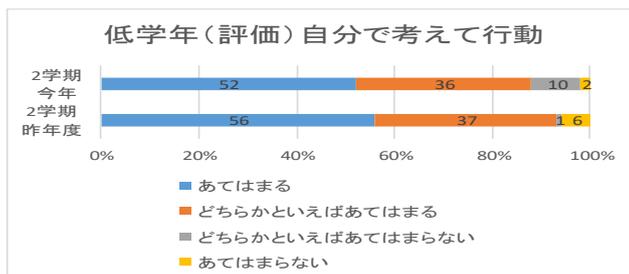
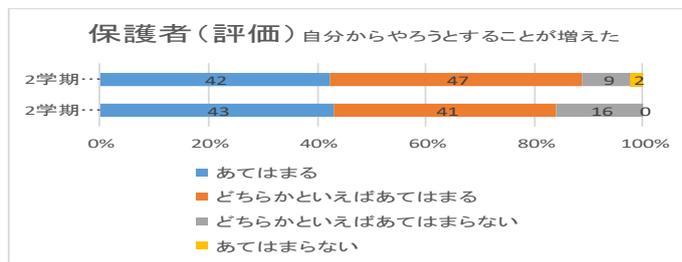
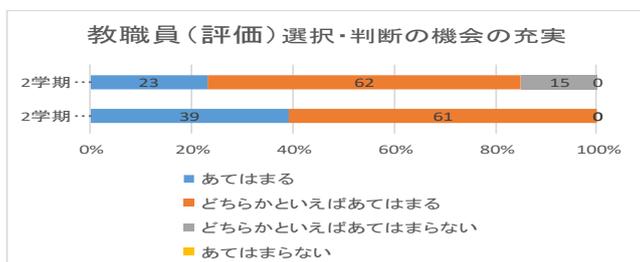
〈自律について〉

教職員 (問2) 児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。

保護者 (問2) 家庭でも一人でできることが増えてきた。

児童 (問1) 自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	23	62	15	0	B	B
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	42	47	9	2	B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問1	44	47	8	1	A	



【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

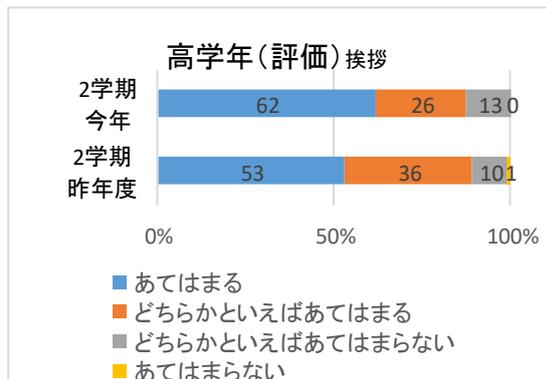
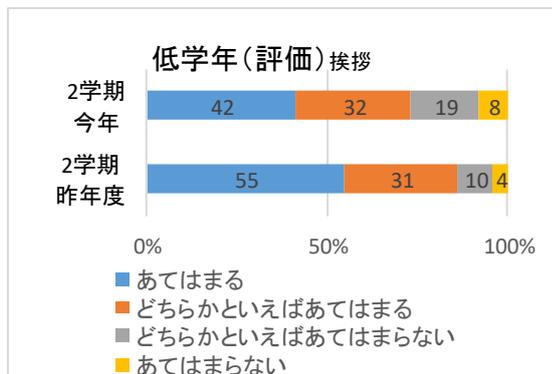
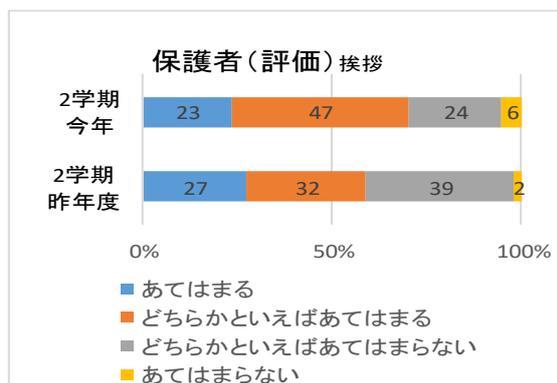
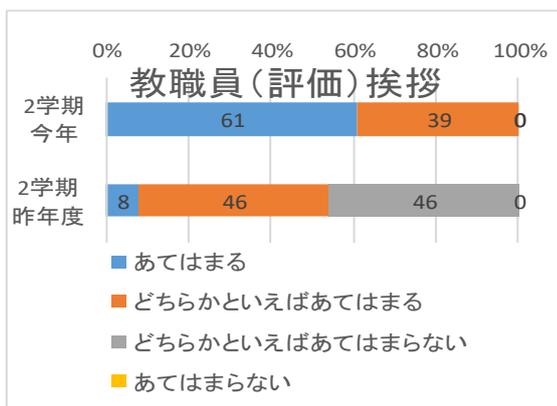
教職員は、「どちらかといえばあてはまらない」が15%と増加した。児童の逸脱行為が増え、児童が判断したり、決めたりする機会より、注意や指示が増えたためではないかと考えた。一方で、自分で考えて行動している児童は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると9割を超え、昨年度と同様、高水準を維持した。しかし、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童をみると、低学年では昨年度と大きな差は見られないが、高学年では12%減少している。自己を振り返り、周囲に流されて指示されたことしかできていないと自覚していることがうかがえる。

保護者においては「あてはまる」については昨年度と同様の数値だった。しかし、「あてはまらない」と感じている保護者が2%増加しているのが気付きである。今後は、児童が学校・家庭・地域において自分で考えて行動できるよう判断したり、決めたりする機会を増やしていきたい。また、行動を振り返って考えさせたり、できたことは評価して褒めたりするなど、児童の自律心の向上に向けて、家庭や地域と連携を図り、本校の教育活動への理解を求めながら積極的に進めていきたい。

〈挨拶について〉

- 教職員 (問3) 子どもたちに、学校や地域であいさつするように指導している。
- 保護者 (問3) 家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。
- 児童 (問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	61	39	0	0	A	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	23	47	24	6	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問2	53	29	15	3	B	



【記述欄】

●挨拶をしても無視をする子が多くて驚きます。(目があっても)挨拶をしない保護者も増えて来ているので、親子で挨拶をするような活動が必要なのかなと思います。

【分析・今後の対応】

自分から進んで挨拶をしていると答えた児童は、高学年では児童が挨拶を呼びかける取り組みをしていることもあり9%増加している。しかし、低学年では「あてはまる」が13%減少し、「あてはまらない」が4%増加している。全体としては「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が82%で、昨年度より6%減少した。

教職員も学校や地域で挨拶をするような指導しており、保護者は70%がよく挨拶をしていると回答し、昨年度より11%増加している。しかし、保護者の記述回答で「挨拶をしても無視する子や挨拶しない保護者も増えているので、親子で挨拶するよう活動が必要ではないか」という意見もあった。

挨拶はコミュニケーションの第一歩として社会に出て働くうえでも大切な力である。引き続き、挨拶の大切さを指導し、今まで以上にPTAや児童会とともに挨拶の活性化をめざし取り組んでいきたい。

【学習指導】

- ・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

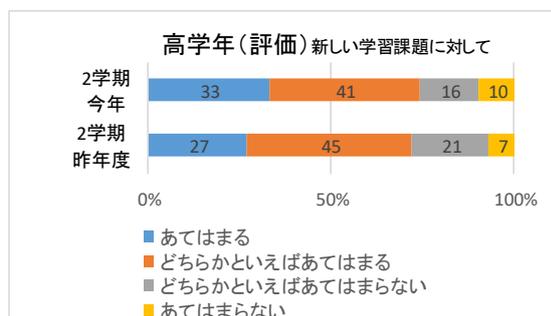
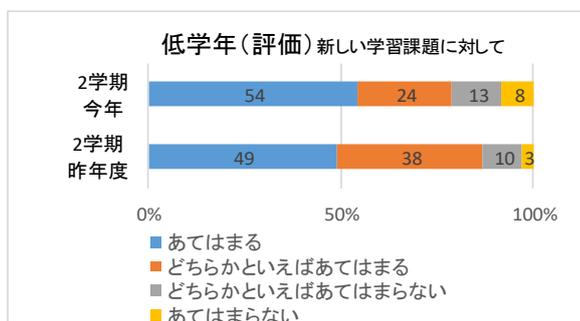
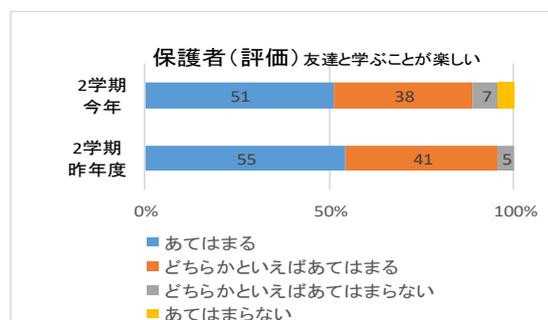
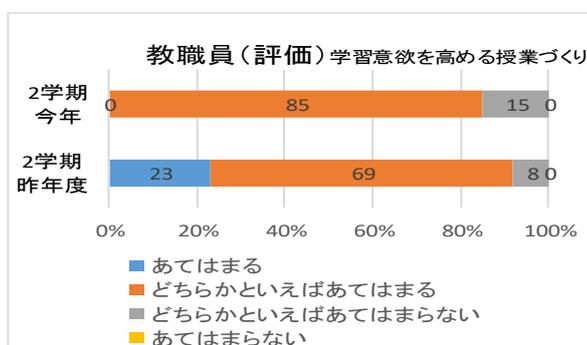
〈学ぶ意欲について〉

教職員 (項目4) 学習意欲を高める授業づくりに努めている。

保護者 (項目4) お子さんは、友だちと学ぶことを楽しんでいる。

児童 (項目3) 新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4	15	70	15	0	B	B
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4	51	38	7	4	B	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問3	42	33	15	9	B	



【記述欄】

- 学びたい子が学べる学校であってほしいです
- 授業の進行を邪魔する子がいるとのことで、おもしろくないし充分学習ができないとよく話しており、前向きに取り組めないようです。

【分析・今後の対応】

教職員については、昨年度と比べて、学習意欲を高める授業づくりに取り組むことに対して積極的に取り組んでいる割合が低下している。日常の学校生活の中で生活指導案件が多発し、放課後の対応も含めて教材研究などの授業改善に向けた取り組みに時間を捻出できていない状況も一因と考える。保護者の回答でも肯定的な評価が低下しており、児童の回答でも「あてはまらない」の割合が増加している。

まずは落ち着いて学習に向かえる生活面の改善や学習規律の立て直しが急務である。

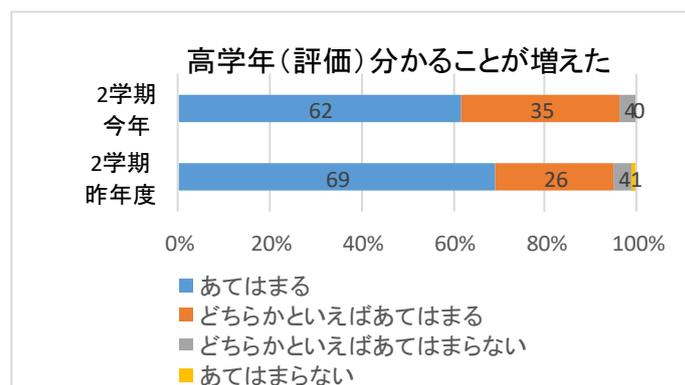
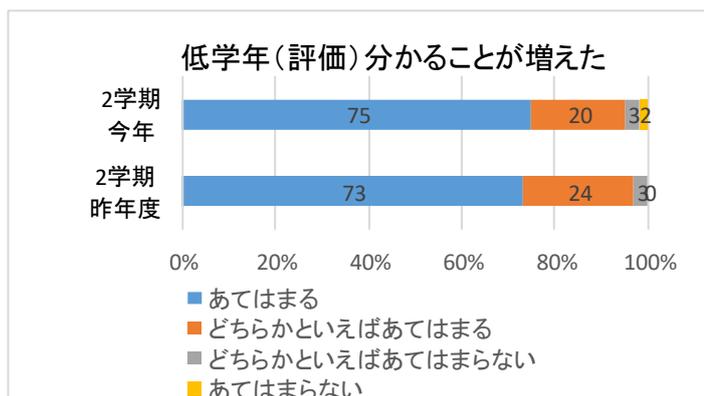
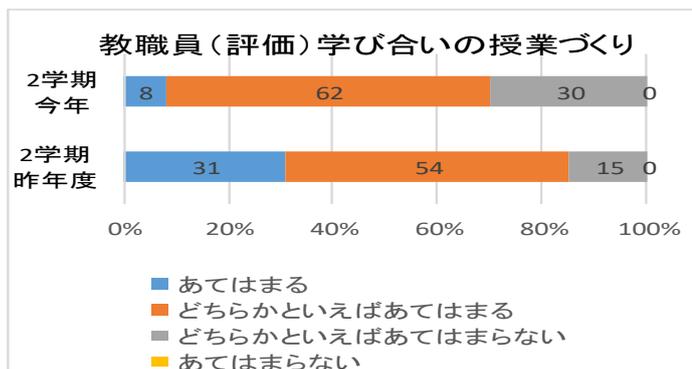
また、授業・家庭学習・朝学習といった学習活動において、つまずきや苦手を学び直す機会を日常的に設けることで自信を持ったり、自身の向上的な変容を自覚できたりするような手立てを検討していきたい。

〈分かった・できたの実感について〉

教職員 (項目5) 友だちの意見を聞いたり、考えを伝えたりと、学び合いの授業づくりをしている。

児童 (項目4) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成 状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	8	62	30	0	B	B
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 4	67	28	3	1	A	



【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

教職員については、A 評価が減少し、B 評価・C 評価が増加していることから、昨年度に比べて学び合いの授業づくりが上手くできていないと感じている教職員が増えている。対話的・協働的な授業づくりには、対話の視点の明確化や児童が自由に意見を述べるができる環境づくりが必要である。来年度に向けて授業研究の中でも、重要視して取り組んでいきたい。

一方で、児童の回答では、A 評価・B 評価の割合が多く、肯定的な評価が多い傾向にある。知識教授型の授業でも、新しく分かるようになった・できるようになったと感じている児童が多いと推測されるが、生きて働く知識として定着させるためには、対話的・協働的な学習の中で学んだことを活用する経験も重要である。一方的な講義型の授業だけでなく、対話的・協働的な学習の機会をなるべく保障できるように改善していきたい。

【人権教育】

- ・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
- ・児童の人権感覚や人権意識を育て、いじめ・差別・偏見等がなく安心できる学校づくりに努める。

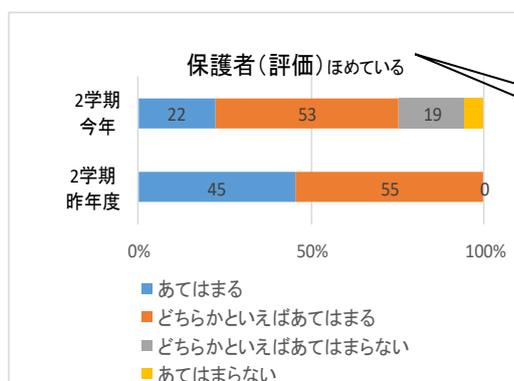
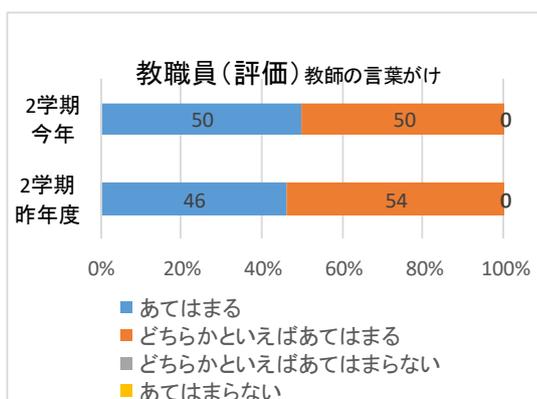
〈自尊感情について〉

教職員 (項目6) 子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。

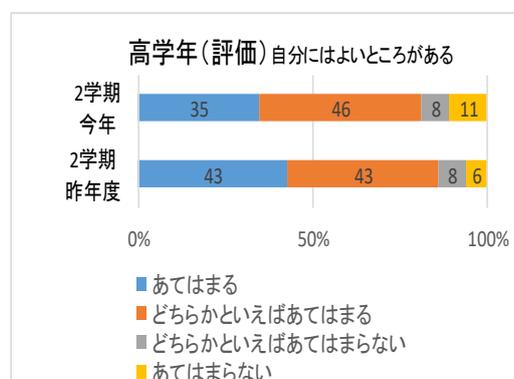
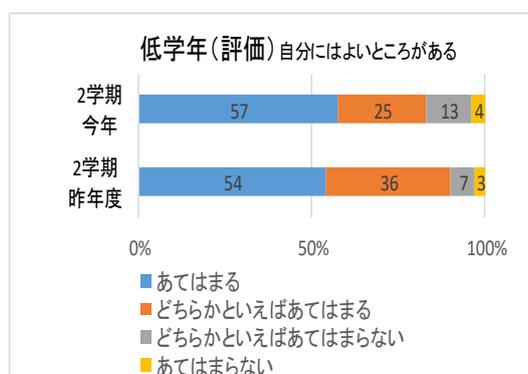
保護者 (項目5) **お子さんは自信を持って前向きに取り組んでいる。**

児童 (項目5) 自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	50	50	0	0	A	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	22	53	19	6	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 5	45	37	10	8	B	



自信をもって前向きに取り組む



【記述欄】

- いじめがあったと聞きました。聞いていると対応が遅いように感じます。教育委員会には報告してくださっているのでしょうか。そして、いじめをしている側の子どもの支援はどのようにお考えでしょうか。支援が必要だということを問題があった家庭の保護者に分かってもらわないといけないと思います。いくら人数が足りなくてもクラスを分ける選択もあるのではないのでしょうか。先生の確保は大変なのは承知していますが、生徒も教師も学校に行けないなどの鬱になる前に対策を考えてほしいです。

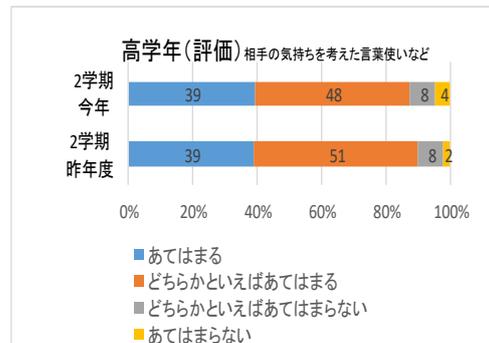
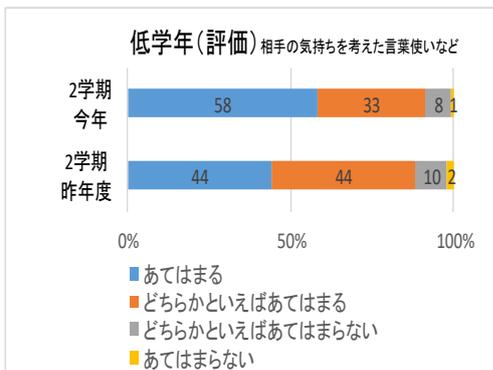
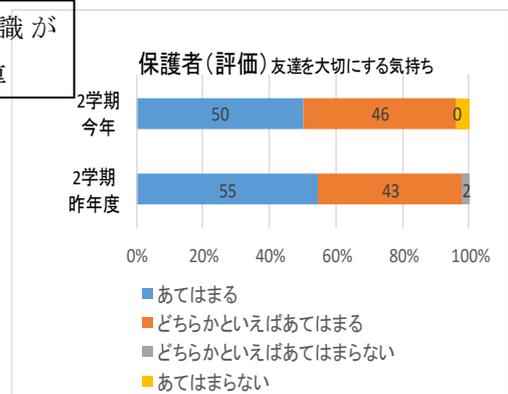
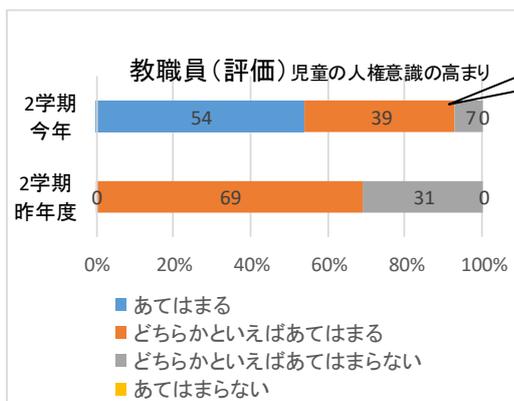
【分析・今後の対応】

「自分にはよいところがある」と感じている児童は昨年度に引き続き全体的には多いが、昨年度に比べ7%減り、「あてはまらない」と感じている児童が増えている。保護者の設問に関しては変更があり、昨年度の数値と一概に比較はできないが、児童が「自信をもって前向きに取り組んでいる」と感じている保護者が8割に満たない。教師は子どもの伸びや頑張りを認める言葉掛けを日常的に意識し行っているが、子ども達自身が達成感、満足感を得られる教育活動を展開していく必要があると考える。また、クラスや縦割り班など様々な場面で一人ひとりの頑張りを支え合いを子ども同士が認め合えるよう、子ども同士をつなぐ言葉かけや働きかけを更に意識していきたい。月目標で「友だちのいいところを見つけよう」や「ありがとうを伝えよう」という目標を設定し具体的に示したり、学級での終わりの会や掃除の振り返りを行う中で友だちの良さを見つけ褒め合う活動を行ったりするなど、今後も継続した取組の中で、児童が自分の可能性や良さ、伸びを感じ、それを認め合えるようにしていきたい。保護者に子どもの伸びや良さが伝わるような連携もしていきたい。

〈人権意識について〉

- 教職員 (項目7) 児童の人権感覚や人権意識が育つように指導している。
- 保護者 (項目6) お子さんは、友だちを大切にしている気持ちが育ってきている。
- 児童 (項目6) 相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができています。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 7	54	39	7	0	A	A
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	50	46	2	4	A	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	48	41	8	3	B	



【記述欄】

【分析・今後の対応】

教職員の設問に関しては変更があり、昨年度の数値と一概に比較はできないが、保護者、児童共に今年度も高い評価を維持している。しかし、安易に相手を傷つける言葉を使ってしまうたり、自分の思いを優先し相手の立場に立った言動ができなかったり、気持ちを上手く伝えられず喧嘩になったり、思い込みで判断して偏った見方をしてしまったりする等の様子も見受けられる。今年度は、各学級や全校で社会性を育む学習を取り入れ、実際に場に応じた言動を児童が考え、やってみることで、実感を伴った学びの場を持つことができた。今後も、相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや行動ができたり、仲の良い友だちだけでなく誰に対しても相手を尊重したりする態度が育つよう、様々な教育活動の中で取り組んでいく。

【複数学年複数担任制】

- 高学年になり、複数担任、教科担任になりました。複数担任も子供も特に問題はないように言っていますが、それに伴い懇談の内容がとても薄くなったと思います。特に学習については懇談の担当の先生の教科しか分からない状況です。親としたら、もっと深い話を聞きたいのにとっても浅い話ばかりになっていると感じます。懇談においては個人個人、4人の担任の先生方でせめて情報を共有して臨んで頂ければと思います。

【分析・今後の対応】

毎日担任団で子ども達の情報共有を行い、家庭との連携を図りながら丁寧な支援体制を取ることができるようになってきた。また、ホームルーム担任が変わったタイミングで安心・安全メールにてお知らせをするなど、保護者の方の不安を軽減することができるように努めてきた。複数の教員の視点で子ども達の姿を見とることができる点をいかし、良さや課題、様子についての情報共有を行いながら、適切な関わりやフォローができるよう努めてきた。子ども達の自律を促していけるような支援を図れるよう、職員チームとして今後も取り組んでいく。

【その他】

【記述欄】

- 〇年生はとにかくトラブルが多く、誰々が何々に嫌なことされていた、死ね死ね言われる、今日は殴られた、物を投げられた、学校に行きたくなくなる、など、ネガティブな言葉を毎日のように聞きました。なぜ同じようなトラブルを繰り返してしまうのか、根本に働きかけてほしいです。
- 不登校児の今後の対策や選択肢について、具体的に教えてほしい。
- 6年生は仲の良い学年なので、安心して見ていられます。下級生が言うことを聞いてくれない、楽しんでくれず反論されるなどと、大変な思いをした一学期の仲良し遠足を経て、運動会でみごとに全学年をまとめあげ、音楽会も素晴らしい合奏で締めくくりました。登下校ひとつとっても、毎日のように何かが起こる学区で、トラブルに巻き込まれることも絶えなかったですが、やられてもやり返さないと一貫して伝えていたら、手は出さなくても、口で言い返すようになってしまったのが、少し気になります。嫌なことをされなかったら、嫌な言葉を発する必要もないのになあ。と。すべてにおいて、『最後の』がつく6年生。トラブルなく、穏やかな小学校生活を送ってほしいなと思います。
- 子ども同士のトラブルがあった場合に、聞き取りなど丁寧に対応していただき感謝しています。
- 同級生の子たちとは楽しくやっているようですが、登下校時の他学年との問題がネックなようで、もう学校に行きたくないと言うことも多いです。学校生活自体は楽しい事ばかりなのに、往復の時間で全てが嫌になるのは悲しいなと思っています。

- 30代から40代前半世代の先生が少ない。バランスに違和感を感じる。
 - 横断歩道は多いが、信号が少ない。
 - 児童の問題行動を心配しています。学校側の対処でムリなら、保護者会など親への強制性も必須だと感じます。そもそも、保護者へも授業ができていないことを知らせるべきです！緊急性を感じた対応を期待しておりますので。対策対応で、教室の防犯カメラ設置も必要だと感じます。いじめ対策、証拠にも繋がります。
- ※個人情報が含まれる内容については、一部加除・修正しております。ご了承ください。

【分析・今後の対応】

今年度、児童同士で起こる様々な問題は増加していますが、一つひとつ丁寧に対応することを心掛け、児童生徒支援教員や生活指導担当を中心に管理職も含め、問題解決を図ってまいりました。

まず、不登校対応です。本校の不登校児童対応マニュアルにもとづき、対応しています。今年度は、教室に向かえない児童が安心して過ごせる居場所づくりを充実させ、サポートルームには、週4日教員OBの方に来ていただき、子どもたちの気持ちに寄り添った支援を行ってまいりました。登校しにくい子には、家庭訪問や電話連絡などつながりを大事にした支援を行っています。

次に、学級における問題行動についてです。問題行動に対して、「未然防止の取組」「早期発見・早期対応」「課題解決」の三つの観点から、取り組んでいます。未然防止では、日常的な指導の中で、児童理解を深め、教職員と児童との信頼関係の構築、全教職員が一体となった児童理解による指導を行いました。特に、道徳教育や人権教育の中で人を大切にすることを授業でも繰り返し教えています。今年度は、児童の「感情をコントロールする力」や「他者とうまくかかわる力」をつけるために臨床心理士の先生に直接、授業でお話をしてもらいました。教室でできるソーシャルスキルトレーニングの方法を学び、各学級で行いました。さらにスクールカウンセラーに月に一回来ていただき、悩みのある児童や困り感の高い児童を中心にカウンセリングも行っています。何よりも、子どもたちの日々の生活の中で寄り添い支援していくことを全教職員が心掛けています。

その中でも、問題行動が起こった時には、両児童から話を聞き、お互いが納得するまで話し合い、状況によっては指導を含め、解決を図ってきました。そして、下校時には、すっきりした気持ちで帰ることができるように取り組んでいます。放課後の保護者への連絡も必ず行っています。

学級によっては、発達によって、担任一人では難しい場面も多々ありましたので、複数で教室に入ることを心掛け、子どもたちが安心できる教室であるように対策を講じながら進めてきました。3学期に入り、少しずつですが、学びに向かう姿、向上心を持って取り組んでいる姿が増えてきています。

しかし、学校だけでは子どもたちの健全な育成を図ることは難しいとつくづく実感しています。これをきっかけに保護者と同じ方向で子どもの成長を支え、心豊かな児童の育成を図っていきたいと考えます。今までも十分連携していただいていたのですが、さらに学校からの情報や連絡に対し、家庭内での会話を大事に、子どもたちと対話しながらよりよい方向へと向かっていけるように声掛けをしていただけたら子どもたちも安心して登校できると思います。今後とも学校の教育活動に対し、ご理解とご協力をお願いします。